

第1回 恵那南地区中学校再編委員会 会議録

- ・日時 平成27年5月14日(木) 19:30～
- ・会場 岩村振興事務所 大会議室
- ・出席者 小中学校代表 春日井尚武、小坂忠昭
こども園代表 千藤まゆみ
地域自治区代表 山本純、西尾公男、黄地尚幸、原田知典、阿部道長、堀真人、
安藤良一、安藤仁志、川上貞夫、大島将官
中学校PTA代表 近藤祐司、伊藤昌治、松下雅昭、成瀬浩司
小学校PTA代表 小川道義、加藤信之、渡邊大剛、川上渡
こども園保護者会代表 森井清、小木曾耕司、成瀬一、伊藤寛隆、堀雄二、川上翔
恵那南地区中学校あり方検討委員会委員 鈴木峰夫、中垣貞好
総合計画審議会代表 西村貢、
行財政改革審議会代表 柘植麻美
振興事務所長 西尾茂文、後藤光男、勝川甲子、三宅勝彦、安藤英幸(代理)
教育委員会 龍田和子、大畑雅幸
事務局 門野幸次郎、岡田庄二、土屋育代、安藤一博、西尾克子、梅村浩三、
石田祐一、山田耕司、度會将仁
- ・欠席者 地域自治区代表 樹神和昭
中学校PTA代表 横光基、小学校PTA代表 高井良三

・委員会内容

1. 開会挨拶 教育長
2. 委嘱書交付 教育委員会より各委員へ
3. 教育委員会から諮問について 資料朗読
4. 委員自己紹介
5. 議事

事務局 : 議事に入ります。

- (1) 委員会設置要綱について

事務局より資料に基づき説明

事務局：(2) 委員長及び副委員長の選任について

要綱第4条により委員長、副委員長を選出

選出の方法はどのようにしたらいいでしょうか。

委員：前回のあり方検討委員会の委員長を務められました鈴木峰夫さんに是非ともお願いしたいと思いますので推薦いたします。

事務局：今、昨年委員長の鈴木さんを推薦いただきましたが、鈴木さんをお願いしてもよろしいでしょうか。

委員：異議なし

事務局：続きまして、副委員長の選任を行います。選任につきましては、どのようにいたしましょうか。

委員：新しい委員長が決まりましたので、この会を円滑に進めていくためには鈴木委員長さんのご指名でどうでしょうか。

事務局：委員長さんのご指名というご意見がございましたがいかがでしょうか。

委員：異議なし

事務局：委員長さん、ご指名をお願いします。

委員長：山岡地域自治区代表の黄地さんをお願いしたいと思いますのでお願いします。

事務局：では、委員長、副委員長からご挨拶をお願いします。

・委員長就任のあいさつ

・副委員長就任のあいさつ

委員長：これより議事に入ります。

(3)これまでの取り組み、課題報告について、

(4)年間スケジュールについて、合わせて事務局より説明をお願いします。

事務局：(3)これまでの取り組みについて

(4)年間スケジュールについて

事務局より資料に基づき説明

委員長：質疑に入ります。ご意見ございませんか。

委員：あり方検討委員会で検討された事が提言書という形で教育委員長さんへ出されました。1つの学校にすることが望ましいということのようですが、もう恵南で1つの学校にするということは決定されたのですか。

教育長 : あり方検討委員会の提言を尊重しながら、この会を進めております。これに基づいて事務局から資料を提示し、それを皆さんに吟味をしていただく。シミュレーションを描いていただく。その中でどこまで可能かを検討していただく。検討の結果、難しいとなれば次のことを考えなければならないと思っています。1校を目指して資料やデータを出させていただきます。それを吟味していただくのがこの委員会です。1校に決まったのですかと聞かれれば、決まっておりません。提言を尊重しながらこの会を進めていくということです。皆様は、各地域の職域の代表の方ですので、そこへ情報を持ち帰ったり、持ち寄ったり、そのことについて進めていただくということです。目指すところを示させていただきながらはっきりさせながらものを言わせていただくということです。

委員 : 教育長さんのあいさつの中で、去年は所属母体の意見の集約が出来なかったということで、今回は特に母体の皆さんに考えていただいて進めていくということはその通りだと思います。地域計画の中での中学校が統廃合になっていくのかどうかということは地域にとって重要なテーマだと思います。地域協議会の中で論議され、計画の中で議論されるとよかったが、去年の代表の話を聞くとみんなの意見を聞く機会がなかった。どうして去年はそれを十分にやりながら提言をまとめられて、今年のように代表の意見というようにできなかつたのかなと思いました。その辺はよその地区はどうでしょうか。

委員 : 去年の流れがわからなかったもので、前任の方に聞いてから臨んだのですが、やはり結論はしっかり出なかったと、あやふやの形で終わったと聞いております。その中で今日の話を知ると統合が決定したかのような流れで説明されたので、違和感を覚えたのですが、十分に吟味された訳ではないので各地域の意見を吸い上げて次の会に繋げていきたいと冒頭でされました。今回もそういう形で進めていくのがベストではないかと思います。メンバーも替わっておりますし、前回の流れがわからない方も多いですし、個人的には賛成しているが地域の皆さんの総意ではないということもありました。地域の意見をまとめて総意をもって今日も参加しているわけではないので、そういうところをしっかりと詰めていくという意味でもう1年検討ということで、もし統合するということがあれば地域の皆さんが納得する状態で進めていくべきではないかと思います。

- 委員長 : 去年のあり方検討委員会に出席していなかったという立場からご意見をいただきましたが、あり方検討委員会に出席された方にご発言をいただきたいと思います。
- 委員 : 去年は9回、会を重ねてきましたが、その中で代表の発言なのか、個人の発言なのかという戸惑いがありました。大半の方がこれだけ人口が減ってくると統合をした方がいいのではないかという意見が多かったのは事実です。そういう中でこういう会の運びになったと解釈しています。
- 委員 : 去年も地域計画及び人口減少の歯止めという意味では、学校の存在が非常に大きなものだとして十分皆さん理解をされております。しかし、それ以上に少数の生徒が少ない教師のもとで本当に都会に出て行って通用するのかという問題もあり、例えば部活動ができない学校よりも少々無理をしても大きな学校に子どもを行かせたいという願いも沢山ありました。その辺を検討して去年は、統合がいいのではないかということになりました。
- 委員 : 去年の会には参加していませんでしたが、説明会に参加しましたが参加の人数が非常に少ない。やはり説明会を上手くやっていく必要があるのではないかと思います。
- 委員 : 自治会の代表ですが、自治会では常に各区長さんに話をし、地域に知らせることが一番大事ですので、会員には会議の内容を話してきましたが質問はありませんでした。説明会はPTAと一般市民を対象に2回行いました。地域で100%同意を得るということではありませんが、説明をして異論がなければ会の意見として解釈して9回の会議に臨みました。これからの会議には、こまめに地域で打合わせをしながら行えばある程度の皆さんの考えは固まるのではないかと思います。
- 委員長 : 今、皆さんからご意見をいただきましたが、あり方検討委員会も当初同じような意見がでて、協議したことをいかに地域の方にお伝えすることが出来るのかということで。個人個人で会の代表とはいえ、それぞれの地域でそれぞれの話をしていると間違って伝わるといふこともあるので、この会の会報を出していただきたいとお願いしました。それから教育長からは、できるだけ地域でお集まりになられるようでしたらお話をいただければ伺いますので、何とかお願いしますという話を皆さんにされました。それぞれの地域、PTAで話をしましたが、出て来ていただいた方が少なかった。説明するという努力は委員も事務局もしてきま

したけれども、もう少し説明した方が良かったという話も確かにありますが、難しいところがあります。最終的には、この1年間どうだったのかという話では、委員会として「恵南1校で行こうではないか」となり、あり方検討委員会から教育委員会に提言書を出しました。しかし、この会でこういう風にしたいという意見があれば、お互いの合意の上で話をしていけばよいのではないかと。もう少し説明会を行ってはどうかという話もありましたが、何か方法についてご意見はないでしょうか。

委員：最近地域の方とお話をする機会がありました。その方たちは、特別反対とおっしゃっている訳ではなくて、地域コミュニティという学校の役割は大きいので、学校がなくなることにより地域コミュニティが損失することが大変心配であると言ってみえました。その辺を踏まえて、文部科学省のガイドラインにもあるように、地域の方が納得いくような説明が足りないのではないかと考えていますが、中には30分掛けても40分掛けても1クラスしかない状態では困るので、早く統合してほしいという意見もあります。最近お会いした方も、地域の半分以上の方が内容を理解していないので、地域に行っていただいて説明会を開催することが大切だと思います。

委員：意見の集約とか説明することは大切だと思っています。次回の地域の会合のときに今日の報告ができますし、そこで皆さんの意見も聞くことができます。このスケジュールですと月に1回という計画ですが、この計画で所属団体に伝えることは難しいのではないのでしょうか。このことが可能なのか判りませんが、その点も考慮して丁寧に進めていってほしいと思います。

事務局：今のお話の中のスケジュールの件ですが、8月は委員会をなしにしております。それは今回の委員会と6月5日の現地視察、6月25日の委員会、7月の委員会で課題や現状を説明しますので、それにより各地域、PTAへの説明会で話をする期間ということであけてあります。この期間で説明が必要であればお伺いしますし、8月に地域懇談会が予定されていますので、この中でも少し時間をいただきまして説明をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

教育長：今、大勢の方々からご意見をいただきありがとうございました。本日は第1回目ですので、よくよく確認をしておきたいことがございます。それは、この提言書にもその旨は述べてありますが、昨年度のあり方検討委員会の終盤の会議で、来

年度、検討委員会で更に具体的に検討していただくが、あり方検討委員会で協議してきたこと、積み上げてきたことが無駄にならないようにしていただきたい。委員が多くは変わられるので、新しい委員だからわからないのもう一回ということではなくて、積み上げていってほしいという強い願いがありました。そのことからしますと、2つの提言の(1)の「早急に改善を図る必要がある」ということについては満場一致で誰も異議を言われることのない決定事項でした。誰もが統合をしないで済むのならそれに越したことはない、それぞれの地域に根づいた伝統ある学校ですので、それに変わる手段があるのかということも意見を交わしましたが、得策は中々見つからないということでした。最初の3回目くらいまでのあり方委員会でも地域が広いので3校か2校との統合だという意見が大半でした。そういう中で、皆さんに協議をしていただいた結果、仮に2校、3校で行っても私たちが願っている小規模校の問題点は解消されず、また同じように検討していくことになり、やっぱり20年、30年先の地域のことを考えて1校という結論に後半はなってきました。提言書を作るにあたり、それぞれの代表の総意ということにされると、学校の代表として苦しいという意見があり、この時は皆さん悩まれました。そういうことから、この提言書は総意ではなく合意ということで作成されております。ここを尊重しながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

委員長 : 1年間検討を重ね、勉強し、どうしようかと取り組んできたことを大事にして、その事は動かさないようにより良い方法を考えていかないと、またゼロからですといつまでたってもゼロからですので、その点を考えていただいて、提言書の上に立っていくようなお話をしていただきたいと思っております。事務局は、皆さんにどうしましょうという話の中で、あり方検討委員会として出した結論ですのでご理解いただきたい。

委員 : この会では、1つにするというのを前提に1年話し合っていくということですね。

委員長 : はいそうです。

委員 : こども園に戻ったときに1つにするという話で進んでいるということをお話しているか。

委員長 : それでいいです。昨年のいろんな思いはありますが、それが一番いいのではないかとあり方検討委員会では決定している。

- 委員 : 先程、まだ決定ではないという話をされているので、実際まだ決定ではないですよね。
- 委員 : 決定ではないのだけれど、決定の方向に向かっていくために課題を解決し、今年1年でそれを決めていき、この委員会では一つにするという目標に向かっていくということですね。
- 教育長 : 去年のあり方委員会の後半は、委員の方は大変苦しみました。委員会の中では皆さんそうするべきという気持ちになられた。私どもが資料やデータを提示していきますから、それについて協議をしてくださいということです。私どもは1校を目指して提案をしていきます。
- 委員 : 去年は1校にしていくということでまとまったということで、今年も1校にするという目標の上でやっていくということですね。
- 教育長 : それを目指して提案していきます。
- 委員 : 去年私も委員会に参加させていただきまして、教育長の言われたような話になってきたわけですが、話し合いで中学校を1校に統合していこうという話の中で提言としてまとまりました。今回のこの会は、1校にしていくという提言を受けて、データを示してくれるということなので、データを吟味しながら可能なのか、妥当かどうかを判断し、もし妥当でないという判断であれば1校という案は流れるということになる。なので1校にするというデータを参考にしながら判断をしていくことで答申ができるという理解をしている。
- 事務局 : 昨年度の流れは、1校にするかどうかという検討ではありません。恵那南地区の中学校をどうすべきか、どのようにしたらよいかという話の中で、2校案、3校案、現状のままという意見があり、1校にした方がいいのではないかと意見が最終的な意見として出てきました。この意見の前提としては1校にしていくということで協議が行われたわけではなく、どういうあり方が望ましいのかという協議をし、1つに統合することが望ましいのではないかとということで提言がなされた。いままで、事務局としても1校という前提でデータを出している訳ではなく、いろいろな形でデータを示している。今年度は、統合するのであれば、1つで考えていったときにどういう状況が生まれてくるのかということをお皆さんで理解していただいで検討していただく。昨年度とは前提が違うため、同じ議論ではないということです。1校が成り立つのか話し合おうという場です。

委員：先程、教育長が言われました、最後は委員の方も苦しまれたということは、まだ地域の総意として上がってきてないと思います。そういうところで無理やりそういうところに進んでいくと最終的に地域にしこりが残っていくと思います。そういうことも考えて、各地区の説明会を何回でも行うという話がありましたが。

教育長：昨年度も早い時期から説明会を開催していただけた地域もありました。委員の方も後半は苦しかったと思います。前半の意識と後半の意識は大きく違ったと思います。その方たちに、もっと地域で説明会を開催した方が良かったなどと攻めることはできません。ですから、昨年の委員の方はよくやっていただいたと思います。

説明会も集まりが悪かったです。今年も何回も出向きますが、今年も少ないのではないかと予測しています。昨年の岩村の説明会で、賛成の意見が言いにくいという意見をいただきました。説明会の雰囲気も好きではないという方もいらっしゃいます。そのため、PTA総会での話など、こちらから出向きますので場を作ってくださいとお願いしました。今回は上矢作小学校で行いましたが、これについても攻めることは出来ません。それぐらい難しいです。進んでないから時間を掛けましょうという話ですと、ここにおられる委員も交代されるので、能率が悪くなる。いま現在在学している子やこれから入ってくる子もいる。できることならば、早く結論を出したい。学校統合に反対する方は、それにかわる案があるのかどうなのかということも大事だと思っています。20,30年後、この地域の一つの学校を卒業した子がコミュニティを背負って立つことを早く実現したいと思います。

委員：今日はじめて、文部科学省の手引書を見させていただきました。骨子は見たことはありました。社会性が育たない、切磋琢磨できないというようなデメリットが書かれています。たとえば小規模校だからできる具体的な提案がある。人数が減らない工夫などを市や教育委員会で考えて、そういう議論がない中で人数だけのすり合わせという形だと教育の中身が違ってくるといった感じがします。委員会の方もこの手引書をきちっと読んで勉強する必要があります。いろんなやり方があり、子ども達の小規模のデメリットを最小に、メリットを最大にということも書いてある。もっと勉強していきたい。

委員：施設についてですが、去年は串原中、上矢作中、西中へ行きましたが、今回は西

中と東中になっている。その理由をお聞きしたい。前回の串原中学校の視察を見させていただいて、この環境でいいのかと思った方も見えたと思います。規模の大きい学校だけでなく、串原中、上矢作中も見たいと思います。

事務局：学校の視察ですが、今回は恵那西中と恵那東中を視察してもらいます。選んだ理由としては、学級数が一学年3から5クラスの学校となっており、一学級は30人から40人程度の学校ですので、そちらの学校を見ていただきたいと思いました。小規模校については後に計画させていただきます。

(5)現地視察について

事務局より資料に基づき説明

委員長：本日はこれで終了します。最後に副委員長挨拶をお願いします。

副委員長：活発なご意見ありがとうございました。この会は諮問に基づいて進めていきますのでご確認ください。地域の説明も十分できていなかったという意見もありましたが、今後は統合の時期について、場所について提出される資料に基づいて地域に説明していくという認識を委員の方にはもっていただきますようお願いいたします。

21:17 終了